



第1回 お腹の透析 「腹膜透析」をご存じですか？

● 腎臓病センター長 丸山 啓輔



内臓の一つである腎臓は、主に尿を作る働きをしています。尿を作るということは、簡単に言うと、体の中の不要な水分と毒素を体の外に捨てるということです。この尿を作る働きが、数か月から数年をかけてだんだんと悪くなり、余分な水分と毒素を捨てきれず、体内に溜まってしまふ病気を慢性腎不全と言います。

慢性腎不全は、血圧のコントロールや食事療法、毒素の吸着剤などで治療しますが、腎不全の進行スピードを遅くすることはできますが、残念ながら腎臓の働きをもとに戻すことはできません。

そして、これらの治療を行ったにも関わらず腎不全が悪化して、水分が溜まりすぎると体にむくみが出て、ひどくなると心不全を起こします。

また、毒素が溜まりすぎると尿毒症となり、倦怠感や食欲低下などさまざまな症状が出ます。特に毒素の一つであるカリウムが溜まりすぎると不整脈を起こし、これは死に直結します。

このような進行した慢性腎不全では、もはや上記の治療ではどうしようもなく、低下した腎臓の働きを代わりをする治療が必要となり、それが透析療法と腎移植です。

この透析療法には腕の血管に2本の針を刺して行う血液透析療法と、お腹にチューブを入れて行う腹膜透析療法の2つの方法があります。一般的に透析と言えば血液透析を意味することが多く、皆さんが思い描かれたり、まわりから耳にされる透析も血液透析のことが多いと思います。

ですので、もう一つの透析療法である「お腹の透析」こと、「腹膜透析」については聞いたこともなかったり、ご存じない方が多いのではないのでしょうか。

腹膜透析とは、腸などの内臓が入っている腹膜で覆われた腹腔内に、手術でカテーテルというチューブを埋め込みます。このチューブから透析液という魔法の水を腹腔内に入れます。この水を4～6時間腹腔内に貯めておくと、その水が体の中の不要な水分と毒素を吸い取ってくれるので、水分と毒素を吸い取った水の全部をこのチューブから体外に捨てます。こうしてお腹の水が空っぽになると、また、チューブから新しい水を入れてと、この操作を繰り返していきます。こうすることにより、体の中から持続的に余分な水分と毒素が取り除かれ、腎臓の働きを代わりをしてくれることとなります。

血液透析と比べてこの腹膜透析のいいところは、医学的には透析を始めた後も尿がよく出るので、塩分制限以外の食事制限が緩やかなことや、緩やかに水分と毒素を取り除くので、心臓に優しいことなどがあげられます。また、社会的には家庭で行う治療ということで、時間の自由度が高いことと、通院回数が月1～2回で済むことがあげられます。これは学校や仕事がある方にとっては、大きなメリットとなります。

もちろん腹膜透析にもデメリットはありますが、慢性腎不全の治療法としては非常に有用です。特に当院は腹膜透析を行っている日本有数の病院ですので、興味をお持ちいただけたら、気軽に相談してみてください。

